

IV. スポーツ・健康科学プログラム

1. 設置の趣旨と教育の目的

少子高齢化社会の到来のみならず、高度テクノロジー化と IT 化にともない、心身の健康の維持増進がこれまで以上に重要になっています。そして、スポーツ・健康科学の発展と普及は、21 世紀の日本社会にとって不可欠なものとなっています。今日我が国の健康問題の多くは、運動不足や情報横溢と密接にかかわるライフスタイルの変化や生活文化に起因しています。そのような中で、特にスポーツや運動活動に求められる期待値は大きく、それらを取り入れた日常生活の質的向上の取り組みが随所で見られるようになっていきます。近年、地域コミュニティにおけるスポーツ基盤の整備や生涯スポーツの機会の提供が進んでいます。他方、ボーダーレス化や商業化が急速に進み、レジャー・イベント・プロスポーツ・メディア等のスポーツ関連領域は巨大な市場を形成しています。

このことは同時に、スポーツを媒介とした国際交流や国際貢献の可能性がさらに大きくなっていることを意味します。

このような状況を背景に、「スポーツ・健康科学プログラム」は学際的な性格を持つスポーツ科学と健康科学を基盤とし、スポーツや健康にまつわる問題を健康・医療・文化・ビジネス・サービス・行政等との関連の中で多面的かつ総合的に考察し、この分野に寄与できる人材の育成を目的としています。

本プログラムでは、従来の体育ないしはスポーツ講義・実技という枠組みではない多様なアプローチが可能になり、総合的かつ体系的な能力が養成されます。つまり、各学部におけるそれぞれの専門科目を履修しながら、当プログラムのスポーツ・健康科学の領域の中で各人が興味をもつ分野を深めていくことができます。そこでは、本プログラム独自に開講する演習科目を通じて専門的な研究を行います。

スポーツや健康に関わる社会的ニーズの増大と多様化によって、それに対応できる資質を備えた人材が今後さらに求められます。これまで教員の養成を主眼としてきたいわゆる教育・体育系学部とは異なり、本プログラムが社会の幅広い領域にマルチスペシャリストを送り出すことの意義は大きいのです。

2. 2025 年度演習科目担当者および履修者数

連番	氏名	所属学部	FLP 演習A	FLP 演習B	FLP 演習C	総計	実施形態
1	浦谷 郁子	法	-	1	-	1	単独(B)
2	宮崎 伸一	法	-	-	1	1	単独(C)
3	村井 剛	法	5	8	5	18	単独(A・B・C)
4	青木 清隆	経済	1	1	4	6	単独(A・B・C)
5	市場 俊之	商	-	1	-	1	単独(B)
6	潮 清孝	商	1	2	-	3	合併(A・B)
7	阿部 太輔	理工	2	-	-	2	単独(A)
8	向山 昌利	文	7	2	-	9	単独(A・B)
9	小林 勉	総合政策	7	9	9	25	単独(A・B・C)
合 計			23	24	19	66	

3. プログラムスケジュール

- 5 月 第 1 回部門授業担当者委員会
- 7 月 ガイダンス（一年次生向け）
第 2 回部門授業担当者委員会
- 11 月 2026 年度募集に伴う選考試験
- 12 月 第 3 回部門授業担当者委員会
学内活動（期末成果報告会）
プログラム合同企画（講演会）
- 3 月 FLP 修了発表
FLP 修了証書授与

4. プログラムの活動

期末成果報告会

実施日： 2025年12月13日(土)10:00～
実施場所： 中央大学 多摩キャンパス 3353 教室
実施内容： 各ゼミによる年度活動報告

プログラム合同企画

実施日： 2025年12月13日(土)14:10～
実施場所： 中央大学 多摩キャンパス 3353 教室
実施内容： 特別講演
テーマ： サッカーW杯と水族館そして女性がつくったひなバラエティ
講演者： 忠鉢 信一 氏（フリーランスライター、元朝日新聞記者）

5. これまでの履修生の主な就職・進学先実績

電通、読売広告社、ADK ホールディングス、読売新聞社、日本放送協会(NHK)、TBS テレビ、Jリーグフォト、日刊スポーツ新聞西日本、ゴールドウィン、ランナーズ、琉球スポーツキングダム、川崎フロンターレ、アスリートクラブ熊本（ロアッソ熊本）、楽天野球団、電通ライブ、セレスポ、山形新聞社、三菱UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、りそなホールディングス、東邦銀行、静岡銀行、山梨中央銀行、足利銀行、きらぼし銀行、横浜銀行、清水銀行、あおぞら銀行、川崎信用金庫、大和証券、日産証券、商工組合中央金庫、住友生命、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン、AIG 損害保険、明治安田生命保険、アフラック生命保険、大塚製薬、伊藤忠商事、丸紅、双日、メタルワン、稲畑産業、住友商事グローバルメタルズ、JFE 商事、日立製作所、富士重工、小松製作所、村田製作所、神戸製鋼所、王子ホールディングス、大林組、奥村組、大和ハウス工業、オープンハウスグループ、麒麟ビール、サッポロビール、ヤクルト本社、ロッテ、日本 IBM、富士通、フォーカスシステムズ、NEC ソリューションイノベータ、富士ソフト、富士ゼロックス、リコージャパン、本田技研工業、SUBARU、ヤマト運輸、佐川急便、日本通運、東日本旅客鉄道（JR 東日本）、京王電鉄、東海旅客鉄道（JR 東海）、西武鉄道、ジェイアール東海パッセンジャーズ、近畿日本ツーリスト、JTB コーポレートセールス、JTB ビジネストラベルソリューションズ、星野リゾート、東京テアトル、KDDI、NTT コミュニケーションズ、東日本電信電話（NTT 東日本）、リクルート、船井総合研究所、野村総合研究所、アクセントチュア、リクルートコミュニケーションズ、インテージ、コクヨ、テルモ、セブン-イレブン・ジャパン、エン・ジャパン、三井住友ファイナンス&リース、ジェーシービー（JCB）、高島屋、日本公文教育研究会、全国農業（協組連）、全国共済農業（協組連）、休暇村協会、国民健康保険中央会、東北電力、警視庁、皇宮警察本部、国家・地方公務員（財務省、厚生労働省、農林水産省、国税庁、東京都庁、静岡県庁、愛媛県庁、多摩市役所など）、立川市社会福祉協議会、学校法人法政大学、国立大学法人一橋大学、中央大学（法科大学院、総合政策研究科）、慶應義塾大学法務研究科、東京学芸大学大学院、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科、首都大学東京大学院人文科学研究科社会行動学専攻など

6. 演習教育活動

(1) 浦谷 郁子 (法学部・助教)

FLP演習B

<テーマ>

「スポーツの疑問を考える」

<授業の概要>

本演習では、「スポーツ哲学」の観点からスポーツに潜む「なぜ」を問い、理論的背景を理解しながら深い思考を促すことを目的とした。受講生は、自身に関心を寄せるスポーツに関するテーマを設定し、関連する論文・新聞記事等の文献を収集したうえで、丁寧な読解と分析を進めた。学修方法は文献研究を中心に、スポーツを多角的に捉える姿勢を養った。

<活動内容>

今年度も文献研究を主軸として学修を進めた。受講生は興味関心に基づき文献を収集し、秋学期を中心に一つずつ丁寧に読解した。読解した文献は、学びたい領域ごとに分類し、翌年度の研究深化へとつながる整理を行った。

本演習は少人数体制のため、受講生の理解度と興味に応じて、毎週、学修テーマや進度を柔軟に調整した。個別性を尊重した学びの設計により、受講生自身が「問い」を持ち、自律的に学びを進めることを重視した。

<今年度の状況と課題>

2025年度は、履修者の理解度や進度に応じて柔軟に学修を進め、文献収集から先行研究の整理まで概ね順調に学修が進んでいた。しかし、学期後半において学修の継続が困難となる状況が生じ、結果として十分な学修成果の共有には至らなかった。

少人数での演習では、履修者一人ひとりに寄り添った指導が可能である一方、学修継続が難しくなった場合の対応や連絡体制について、教員側の判断に委ねられる場面も多い。今回の経験から、少人数・個別型演習における運営上の課題や、支援体制のあり方について検討の余地があると感じた。

<今後の展望>

今後は、これまでに蓄積した文献や資料を活用しながら、スポーツをめぐる問いをより体系的に整理し、文献研究を基盤とした思考の深化を図っていきたい。少人数制演習の特性を生かし、受講生が主体的に問いを立て、継続的に学びを進められるような学修環境づくりを目指す。あわせて、演習運営の面においても、今後の履修検討者が安心して参加できるよう、学修支援の在り方について引き続き模索していく予定である。

(2) 宮崎 伸一 (法学部・教授)

FLP 演習 C

<テーマ>

学生主導の知的障害者スポーツの支援に特化した NPO 法人設立の可能性を探る

<授業の概要>

本年の C クラスの学生は、FLP 演習 A、B を通じて、障害者のスポーツ活動をはじめとするいくつかの活動に、実際に触れる体験をしてきた。本年度は、その総仕上げとして、知的障害者スポーツ活動を中心に、障害をもつ方々の広い意味での生きがいを作成するため、彼らの活動の拠点となる NPO 法人の設立の可能性について探ってみる。

<活動内容>

ソーシャルフットボールを通じて、精神障害のある方々と支援者、地域住民が立場を超えて交流し、共に楽しむ場を創出することは可能か？を実地体験により確認する。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：C

実施日：2025 年 9 月 13 日(土)～2025 年 9 月 16 日(火)

実施都市：北海道函館市(9 月 14 日)・札幌市(9 月 15 日)

①実施場所：函館アリーナフットボールパーク

実施内容：MA CUP 第 1 回交流大会 道南ソーシャルフットボール 1 周年記念大会に札幌 PSAC (ソーシャルフットボールクラブ) のメンバーとして参加し、全 5 チームと総当たり戦をおこなった。

②実施場所：札幌・フットサルスタジアム蹴

実施内容：初心者・女性・年配者・体力に自信のない方のための定期練習会であり、当日は計 25 名ほどの男女の参加者とともにウォーミングアップと基礎練習の後、チームに分かれてゲームをおこなった。

※参加者、見学者からの声

- ・通院している病院の先生から参加を勧められた。フットサル経験はないから今日とはとりあえず見学だけど、活動を見てたらやりたくなった。次回は参加しようと思う。
- ・もともと参加していた支援者の先生の紹介で参加。みんなのレベルが高くて大変だけど、楽しい。

成 果：<学生の感想>

フットサルを通じてスポーツの楽しさ、チームで協力する楽しさはもちろん、シュートを決めるだけではない、自分の輝くポイントを見つけるきっかけとなり、参加の自信にもつながる。障害者が社会とのつながりを持つことの意義について学ぶことができた。

実際に接してみると、偏見(スティグマ)を持つこと自体間違えていることに気が付くことができた。しかし、未だに障害者と社会が繋がる機会や環境は少ないように感じる。

<課題>

地域社会との交流は誰もが尊重される共生社会の実現への一歩として重要である。NPO 法人の設立は具体的なツールとなり、社会人になってからの今後の活動が期待される。

(3) 村井 剛 (法学部・教授)

FLP演習A

<テーマ>

スポーツ心理（認知・行動）部分を知る

<授業の概要>

スポーツの技能と学習、心理的効果、心理的適応、動機づけ（モチベーション）、競技心理について、文献や実態を確認しながら理解を進めた。スポーツ愛好者、競技者、指導者、それぞれの立場からスポーツ心理を学んでいけるよう授業展開は配慮した。

また、中央大学のスポーツ振興を目的として、体育連盟の運動部のプロモーション方策の検討、モチベーションビデオの制作を行った。

<活動内容>

メインの活動として、春学期はスポーツに関する心理、認知的な側面に関する文献の情報収集や実態の把握を中心に展開した。

秋学期に入り、B・C生がメインに活動している調査、研究対象の見学、手伝い、データ収集、データ分析作業も一部担った。

B・C生と共に、身近に体育連盟を感じつつ、ゼミを通して部へどのように貢献していくかを考えるきっかけを得た。

特にモチベーションビデオ制作過程においては、アンケート調査によってニーズをヒアリングしたり、競技スポーツ現場との密なつながりも形作ることができたため、B生以降の活動への動機付けとして、またゼミ活動を自分ごととして取り組むための責任感も生むきっかけづくりのできた1年間であったと感じている。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B・C

実施日：2025年8月19日(火)～2025年8月20日(水)

実施都市：長野県北安曇郡

実施場所：白馬パラトピア五竜パラグライダースクール

実施内容：レジャー型スポーツを通じた体験が、心理的にどのような変化を及ぼすのか、質問紙調査、自由記述、唾液アミラーゼ、心拍数のデータ等を主に加味しながら調査を実施した。主に心拍数測定から解析する感情分析と質問紙調査の一致度を測定した。

成果：パラグライダーの体験活動時の生体動態や、心理的影響について調査することができたが、心拍数の増加は顕著な形での上昇は認められなかった。また、レジャースポーツに関する運営・指導者側の安全管理に関する情報収集ができたことも大きな成果の一つと感じている。ゼミ生間の学年を超えた交流促進、調査法の実際について実地的な訓練もできた。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年8月19日(火)

講演者：田口 雄氏 (reth株式会社)

演題：第二のニセコと呼ばれる白馬インバウンドの実態について

実施都市：長野県北安曇郡

実施施設：アルペンブリック入山登

実施内容：国内のインバウンド事情としてはニセコに次ぐ知名度を誇る白馬村であるため、この地域特有の事情やビジネス的な視点について、宿の経営やクラフトビールの製造に関わる講話を依頼した。

成果：1998年長野オリンピックを境に、スキーブームが去り、ピンチの危機から今に至

る変遷や、これからの課題についても幅広く話題提供を受けることができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年9月11日(木)～2025年9月12日(金)

実施都市：長野県上田市

実施場所：アンダーアーマー菅平サニアパーク 陸上競技場

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、合宿時の映像素材収集のため、合宿地にて撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年11月22日(土)

実施都市：東京都町田市

実施場所：町田 GION スタジアム

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、「MARCH 対抗戦 2025」に出場する駅伝部の撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年12月6日(土)～2025年12月7日(日)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス

実施内容：中大杯の運営と調査

成果：中大杯という大学全体での地域振興スポーツイベントにゼミが企画参画することは大変意義があり、ダイレクトに子供たちのデータ測定ができたことも学生にとっては良い体験だったと感じている。

F L P 演習 B

<テーマ>

スポーツ心理（認知・行動）部分を知る

<授業の概要>

スポーツの技能と学習、心理的効果、心理的適応、動機づけ（モチベーション）、競技心理について、文献や実態を確認しながら理解を進めた。スポーツ愛好者、競技者、指導者、それぞれの立場からスポーツ心理を学んでいけるよう授業展開は配慮した。また、中央大学のスポーツ振興を目的として、体育連盟の運動部のプロモーション方策の検討と、箱根駅伝支援の一環でモチベーションビデオを制作した。

<活動内容>

メインの活動として、春学期はスポーツに関する心理、認知的な側面に関する文献の情報収集や実態の把握を中心に展開した。

秋学期に入り、バレーボール部に関する振興活動、駅伝サポート活動、C 生調査の手伝いを実施した。身近に体育連盟を感じつつ、ゼミを通して部へどのように貢献していくかを考えるきっかけを得た。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：B・C

実施日：2025年8月7日(木)～2025年8月8日(金)

実施都市：長野県下高井郡

実施場所：志賀いこい荘

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、合宿時の映像素材収集のため、合宿地にて撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年8月19日(火)～2025年8月20日(水)

実施都市：長野県北安曇郡

実施場所：白馬パラトピア五竜パラグライダースクール

実施内容：レジャー型スポーツを通じた体験が、心理的にどのような変化を及ぼすのか、質問紙調査、自由記述、唾液アミラーゼ、心拍数のデータ等を主に加味しながら調査を実施した。主に心拍数測定から解析する感情分析と質問紙調査の一致度を測定した。

成果：パラグライダーの体験活動時の生体動態や、心理的影響について調査することができたが、心拍数の増加は顕著な形での上昇は認められなかった。また、レジャースポーツに関する運営・指導者側の安全管理に関する情報収集ができたことも大きな成果の一つと感じている。ゼミ生間の学年を超えた交流促進、調査法の実践について実地的な訓練もできた。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年8月19日(火)

講演者：田口 雄氏 (reth 株式会社)

演題：第二のニセコと呼ばれる白馬インバウンドの実態について

実施都市：長野県北安曇郡

実施施設：アルペンブリック入山登

実施内容：国内のインバウンド事情としてはニセコに次ぐ知名度を誇る白馬村であるため、

この地域特有の事情やビジネス的な視点について、宿の経営やクラフトビールの製造に関わる講話を依頼した。

成 果：1998 年長野オリンピックを境に、スキーブームが去り、ピンチの危機から今に至る変遷や、これからの課題についても幅広く話題提供を受けることができた。

対象演習：A・B

実 施 日：2025 年 9 月 11 日(木)～2025 年 9 月 12 日(金)

実施都市：長野県上田市

実施場所：アンダーアーマー菅平サニアパーク 陸上競技場

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成 果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、合宿時の映像素材収集のため、合宿地にて撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

対象演習：A・B

実 施 日：2025 年 11 月 22 日(土)

実施都市：東京都町田市

実施場所：町田 GION スタジアム

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成 果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、「MARCH 対抗戦 2025」に出場する駅伝部の撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

対象演習：A・B

実 施 日：2025 年 12 月 6 日(土)～2025 年 12 月 7 日(日)

実施場所：中央大学多摩キャンパス

実施内容：中大杯の運営と調査

成 果：中大杯という大学全体での地域振興スポーツイベントにゼミが企画参画することには大変意義があり、ダイレクトに子供たちのデータ測定ができたことも学生にとっては良い体験だったと感じている。

FLP演習C

<テーマ>

スポーツ心理（認知・行動）部分を知る

<授業の概要>

スポーツの技能と学習、心理的効果、心理的適応、動機づけ（モチベーション）、競技心理について、文献や実態を確認しながら理解を進めた。スポーツ愛好者、競技者、指導者、それぞれの立場からスポーツ心理を学んでいけるよう授業展開は配慮した。また、中央大学のスポーツ振興を目的として、体育連盟の運動部のプロモーション方策の検討と、箱根駅伝支援の一環でモチベーションビデオを制作した。

<活動内容>

春学期はスポーツに関する心理、認知的な側面に関する文献の情報収集や実態の把握を中心に展開した。

秋学期に入り、バレーボール部に関する振興活動、大学バスケットボール界における、Bリーグドラフト制度の是非に関するアンケートとインタビュー調査、駅伝サポート活動を実施した。身近に体育連盟を感じつつ、ゼミを通して部へどのように貢献していくかを考えるきっかけを得た。

詳細の各活動内容に関しては、ゼミの活動報告書として冊子にまとめた。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：B・C

実施日：2025年8月7日(木)～2025年8月8日(金)

実施都市：長野県下高井郡

実施場所：志賀いこい荘

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、合宿時の映像素材収集のため、合宿地にて撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年8月19日(火)～2025年8月20日(水)

実施都市：長野県北安曇郡

実施場所：白馬パラトピア五竜パラグライダースクール

実施内容：レジャー型スポーツを通じた体験が、心理的にどのような変化を及ぼすのか、質問紙調査、自由記述、唾液アミラーゼ、心拍数のデータ等を主に加味しながら調査を実施した。主に心拍数測定から解析する感情分析と質問紙調査の一致度を測定した。

成果：パラグライダーの体験活動時の生体動態や、心理的影響について調査することができたが、心拍数の増加は顕著な形での上昇は認められなかった。また、レジャースポーツに関する運営・指導者側の安全管理に関する情報収集ができたことも大きな成果の一つと感じている。ゼミ生間の学年を超えた交流促進、調査法の実践について実地的な訓練もできた。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年8月19日(火)

講演者：田口 雄氏 (reth株式会社)

演題：第二のニセコと呼ばれる白馬インバウンドの実態について

実施都市：長野県北安曇郡

実施施設：アルペンブリック入山登

実施内容：国内のインバウンド事情としてはニセコに次ぐ知名度を誇る白馬村であるため、この地域特有の事情やビジネス的な視点について、宿の経営やクラフトビールの製造に関わる講話を依頼した。

成 果：1998 年長野オリンピックを境に、スキーブームが去り、ピンチの危機から今に至る変遷や、これからの課題についても幅広く話題提供を受けることができた。

(4) 青木 清隆 (経済学部・准教授)

FLP演習A

<テーマ>

日本における競技スポーツ文化を考える

<授業の概要>

スポーツが人類固有の文化であることの理解を深めるために、スポーツの発祥から今日までの発展系譜を学習する。そのうえで、競技スポーツ文化の歴史と現状を日本を中心に考察していく。その際のキーワードは、「メディア」・「メジャー・マイナー」・「スポーツビジネス」・「部活動」・「プロスポーツのマネジメント」・「ジェンダー」などであり、日本の競技スポーツ文化の評価点や問題点を浮き彫りにしていきたい。

レクチャーやディスカッションを多く実施していく予定であるが、受講生は設定された課題に対して文献やインターネットを通じて調査と分析を行い、その果実をプレゼンテーションすることが数回ある。

<活動内容>

青木ゼミはゼミ生が個人単位で研究活動を行うことに主眼を置いているため、2025年度も以下のようなゼミ室での学習活動が中心であった。

1. 担当教員によるスポーツ文化に対するレクチャーと討論

- ①スポーツ発祥の経緯と、今日までのスポーツの変容や発展状況の概要について。
- ②競技スポーツを中心とした各種スポーツ文化の成立・変容・現状の概要について。
- ③日本におけるスポーツの発展状況、および競技スポーツ文化の特徴について。
- ④日本における競技スポーツ文化の現状・問題点の概要について。
- ⑤日本特有の運動部文化の功罪の概要について。
- ⑥日本におけるスポーツビジネスの功罪の概要について。
- ⑦日本の競技スポーツ種目におけるメジャー・マイナー化現象の概要について。
- ⑧日本におけるプロスポーツの問題点と課題の概要について。

2. ゼミ生の調査活動とプレゼンおよび討論

- ①ゼミ生が興味のある競技スポーツ種目を担当し、それぞれ発祥から競技化への略歴、日本への移入の経緯、日本での定着や発展の経緯、現状と問題点などについて、文献やNetでの調査を行いプレゼンおよび討論を実施した。
- ②プレゼン後の討論や担当教員の講評を踏まえ、プレゼン内容の再構成・再調査・再分析を行い、その結果をレポートとして提出させた。

3. 演習B・C生による研究報告と担当教員の解説の聴講

- ①「首都圏に集中するJリーグクラブの生き残り戦略」について。
- ②「日本における野球・サッカー以外のスポーツ種目のメジャー化を目指した規模拡大戦略」について。
- ③「高校野球における公立校と私立校の二極分化の現状と問題点」について。
- ④「NPBの育成制度の現状と問題点」について。
- ⑤「日本のテニスプレイヤーの活動環境・生活環境の現状と問題点」について。

4. 「提言書」作成に向けた個人研究の方向性の検討

- ①問題の所在、研究の方向性、テーマ(仮)、研究方法の検討。
- ②「提言書」に対する個人研究の第1回目の調査とプレゼン。

FLP演習B

<テーマ>

日本における競技スポーツ文化を考える

<授業の概要>

演習 A からの学習テーマを継続し、「日本における競技スポーツ文化を考える」ことを内容とした授業を展開する。演習 A ではスポーツ文化に対する共通の基礎学習を中心に行ってきたが、演習 B ではゼミ生一人ひとりに競技スポーツ文化に関する学習課題を設定し、それぞれが文献調査やフィールドワークを通して学習を深めていくことが中心となる。調査した果実はプレゼンテーションにて報告することとし、ディスカッションを通してゼミ生全員が日本における競技スポーツ文化を広く学習することを目指していきたい。

<活動内容>

演習 A と同様に、演習 B も前期・後期通じてゼミ室での学習を中心に展開した。学習の内容は、以下に示した通り 2 年生の後半から進めてきた「提言書」作成のための個人研究活動と、日本における競技スポーツ文化の基礎的な理論学習を実施した。

1. 担当教員によるレクチャーと討論

- ①日本の競技スポーツにおける部活動制度の功罪について。
- ②日本におけるプロスポーツの経営戦略の概要について。
- ③日本のプロスポーツのファン獲得・観客動員数拡大戦略の概要について。
- ④日本のプロスポーツにおけるスポンサーの影響力の概要について。
- ⑤日本のプロスポーツにおけるメディアの影響力の概要について。
- ⑥日本におけるプロスポーツ選手の活動環境・生活環境の現状概要について。
- ⑦日本のプロスポーツを支える指導者・審判・トレーナーの現状概要について。
- ⑧競技スポーツにおけるジェンダー・多様性への対応の現状概要について。

2. 演習 C 生による研究報告と担当教員の解説の聴講

- ①「首都圏に集中する J リーグクラブの生き残り戦略」について。
- ②「日本における野球・サッカー以外のスポーツ種目のメジャー化を目指した規模拡大戦略」について。
- ③「高校野球における公立校と私立校の二極分化の現状と問題点」について。
- ④「NPB の育成制度の現状と問題点」について。

3. 「提言書」作成に向けた個人研究

- ①調査・分析できた内容を定期的にプレゼン
→研究の方向性の再確認、調査範囲・調査内容の再確認、分析の視点の再確認。
- ②先行研究の調査・収集・読み込みと、研究の背景に関する論理形成学習。
- ③目次を始め論文構成に関する学習。

FLP演習C

<テーマ>

日本における競技スポーツ文化を考える

<授業の概要>

演習Aから継続して学習を重ねてきた、「日本における競技スポーツ文化を考える」というテーマに対して、現状・問題点・課題・未来という内容からより発展的な授業を展開する。演習Bでは受講生一人ひとりが日本の競技スポーツ文化に関する学習課題を設定し、それに対する文献研究や聞き取り調査を通して現状の把握に努めてきたが、演習Cでは問題点や課題あるいは今後の改革についての考察を行い、それぞれが設定したテーマに対する私論を確立できることを目指して展開していきたい。

<活動内容>

演習A・Bと同様に、演習Cも前期・後期通じてゼミ室での学習を中心に展開した。学習の内容は、以下に示した通り2年生の後半から進めてきた「提言書」作成のための個人研究活動と、日本における競技スポーツ文化の発展的な理論学習を実施した。

1. 担当教員によるレクチャーと討論

- ①日本における部活動の目的論と地域連携の是非について。
- ②日本における競技スポーツの地域格差・経済格差の現状について。
- ③日本の大学競技スポーツの現状と問題点について。
- ④日本における社会人競技スポーツのプロスポーツとの関係性における功罪について。
- ⑤日本の個人型・チーム型競技スポーツ選手の活動環境・生活環境の現状について。
- ⑥日本におけるチーム型プロスポーツの経営の限界について。
- ⑦日本の競技スポーツに対するメディアとスポンサーの支援状況および課題について。
- ⑧高校野球・大相撲・フィギュアスケートを支えるファンの特徴について。
- ⑨NPB・Jリーグ・Bリーグを支えるファンの特徴について。
- ⑩日本におけるマイナースポーツからメジャースポーツへの変革の取り組み状況について。

2. 「提言書」作成に向けた個人研究

それぞれの2年間の継続研究は、以下のテーマの「提言書」としてまとめられた。

①ゼミ生A(経済学部)

テーマ：「横浜FCをモデルとした首都圏に集中するJリーグクラブの生き残り経営戦略に対する提言」

②ゼミ生B(経済学部)

テーマ：「NPBにおける育成契約制度と各球団の取り組みの現状分析および福岡ソフトバンクホークスをモデルとした今後の各球団の取り組みに対する提言」

③ゼミ生C(文学部)

テーマ：「バドミントンをモデルとした日本におけるスポーツ種目の競技人口の規模拡大戦略に対する提言」

④ゼミ生D(文学部)

テーマ：「1991年以降の高校野球における公立・私立校の二極分化に対する状況分析および今後の在り方に関する提言」

(5) 市場 俊之 (商学部・教授)

FLP 演習 B

<テーマ>

スポーツを「みる」

<授業の概要>

スポーツを「みる」の「みる」には、「見・観・鑑・診・看」などを当てはめることができる。スポーツを多彩に、多角的に、かつ階層的に取り扱う。2つのテーマを想定している。ひとつは、「オリンピックとパラリンピック」、「ワールドカップ(サッカー)などの大きなスポーツ・イベント」を「みる」である。歴史的な背景を把握し、眼前のイベントの様態を考察する。中央大学とオリ・パラほかとの関りも調査・検討する。そこでは、「女性スポーツ」ないしは「ジェンダー」の視点からのアプローチを試みる。もうひとつは、スポーツ活動に不可欠な「人間の運動」を「みる」である。人間とはどんな存在なのかから始める。人間の運動とは何か、動きを教える・学ぶ・伝承することを狙いに乗せる。例えば、我々がスポーツや身体活動を行い、その体験・経験がどんな機能ないしは意味を有するのかなどについて考える。現象学・身体性をキーにする。

ゼミ活動は、おもに文献・資料の渉猟と講読から始める。適期に見学調査ないしは実態調査などのフィールドワークを行う。最終的に報告書を作成する。

<活動内容>

市場ゼミの活動は、演習 A から継続の「現象学」ないしは「身体性」に関する文献を講読した。そこでは、東ドイツのクルト・マイネルに由来する「運動学」を日本において普及定着させた金子明友について知った。これらを通じ、自然科学的なエビデンスとは一線を画し、感覚または体感を基底にする感性学的運動学の概要を学んだ。担当教員により「ドイツ体操祭」ならびに「国際マスターズ大会」について報告され、ドイツのスポーツの有様とマスターズ体操競技の現状を管見した。

「スポーツの発展の4期間区分」や「平等・公平」について考えた。同時並行して、「女性スポーツ」について調査した。オリンピック大会と世界選手権大会を対象とし、陸上競技の女性種目導入・開始を際立たせるために男性種目の動態と対照した。種目比較とユニフォーム変遷を合わせ、社会的背景と女性観に関係づけることを試みた。歴史または時間経過における変遷とその背景は一定程度把握できた。次の課題は、これらを基に現代及び将来を予持することである。

(6) 潮 清孝 (商学部・教授)

FLP演習A・B

<テーマ>

剣道を通じたビジネスおよび海外文化の理解

<授業の概要>

剣道を通じて日本文化の海外普及や海外でのビジネスの最前線において活躍されている個人や組織の方をオンラインで定期的にゲストにお招きし、お話を伺う。

マイナー競技ならではの仲間意識を入り口とすることで、他者と異なるコミュニケーションを図ることが期待される。また、当該競技の中で得られる知識や経験を、どのようにビジネスなどの分野で生かすことができるか、といった点などについても、ゲストなどの体験談を通じて学習する。

なお、商学部課題演習「マイナー競技（主に剣道）を通じたビジネスおよび海外文化の理解」と連携して授業を実施する。

<活動内容>

当ゼミでは、主に剣道を中心としたマイナー競技を共通のテーマとして、スポーツ経営、地域活性化、文化発信、若者層への普及戦略など、多角的な視点からビジネスおよび海外文化の理解を深めることを目的として活動している。本年度は特に、競技経験を活かしたキャリア形成や、地域密着型スポーツクラブの経営、伝統文化の継承と現代的発信のあり方などに焦点を当て、各分野で実践的に活動されている方々を講師として招いた。受講者は、講演を通じて理論と実務の接点を学ぶとともに、ディスカッションを通じて自らの経験や将来像と結び付けながら理解を深めた。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B

実施日：2025年6月2日(月)

講演者：磯崎 仁氏(株式会社フットボールクラブ佐賀)

演題：地域スポーツと経営：ブリュー佐賀の事例をもとに

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5201 教室

実施内容：地域密着型スポーツクラブであるブリュー佐賀の事例をもとに、地域スポーツクラブの経営課題、スポンサー獲得、ファンづくり、自治体や地域企業との連携などについて具体的にご講演頂いた。また、地方におけるスポーツビジネスの可能性や持続可能な組織運営の在り方についてもお話を伺った。

成果：受講者は、プロスポーツ経営が単なる競技運営ではなく、地域社会との関係性の構築を基盤とする総合的な経営活動であることを理解することができた。特に、地域資源を活用した価値創造や組織運営の工夫について具体的な示唆を得ることができ、スポーツと経営の結びつきを実践的に学ぶ機会となった。

対象演習：A・B

実施日：2025年6月16日(月)

講演者：竹吉 京花氏(BUSHIZO 株式会社 金沢彩士館店)

演題：剣道を通じた国際交流

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5201 教室

実施内容：剣道を通じた国際交流の実践例として、海外との交流活動や剣道文化の発信についてご講演頂いた。SNS等を活用した情報発信の取り組みや、若年層・海外層へのアプローチ方法についても具体例を交えてご説明頂いた。

成果：剣道が単なる競技にとどまらず、国際交流や文化外交の一端を担う存在となり得ることを理解することができた。また、伝統文化を現代社会に適応させながら発

信する難しさと意義について活発なディスカッションが行われ、文化とビジネスの接点について多角的に考察する機会となった。

対象演習：A・B

実施日：2025年6月23日(月)

講演者：大矢 芳弘 氏（株式会社VC長野クリエイトスポーツ）

演題：剣道からプロスポーツ経営へー競技経験を活かすキャリアのかたちー

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5204B 教室

実施内容：剣道での競技経験を基盤としながらプロスポーツ経営に携わるまでのキャリア形成についてご講演頂いた。競技経験が組織運営やマネジメントにどのように活かされているのか、またスポーツビジネスの現場における意思決定や組織づくりについて具体的にお話を伺った。

成果：受講者は、自らの競技経験や学生時代の活動が将来のキャリア形成にどのように結びつく可能性があるのかを具体的に考える契機を得た。競技で培われた価値観や行動様式がビジネスの現場でどのように活用されているのかを理解し、スポーツと経営の連続性について深く学ぶことができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年9月29日(月)

講演者：大場 克則 氏（「江戸の歩き方」研究者・インフルエンサー）

演題：日本文化・伝統の伝承と若者層への魅力訴求

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5204B 教室

実施内容：日本文化・伝統の伝承をテーマに、歴史や文化を現代の若者層にどのように伝えていくかについてご講演頂いた。インフルエンサーとしての活動事例を交えながら、情報発信の工夫やブランド化の戦略について具体的にお話を伺った。

成果：受講者は、伝統文化の価値を再定義し、現代社会に適応させながら発信する重要性を理解することができた。特に、若者層への魅力訴求における言語選択やメディア活用の工夫について具体的な示唆を得ることができ、文化とマーケティングの接点について考察を深めることができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年10月20日(月)

講演者：園田 高志 氏（株式会社プロダクションHIT）

演題：若者層への剣道普及とお笑いについて

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5204B 教室

実施内容：若者層への剣道普及をテーマに、エンターテインメントやお笑いの要素を取り入れた発信活動についてご講演頂いた。競技人口減少という課題に対して、どのようなアプローチが可能であるかについて具体例を交えてご説明頂いた。

成果：受講者は、従来の枠組みにとらわれない発信手法の重要性を理解することができた。剣道の伝統性を尊重しつつも、新たな層へ訴求するための工夫や発想の転換について活発な議論が行われ、文化継承と革新の両立について深く考える機会となった。

(7) 阿部 太輔 (理工学部・助教)

FLP 演習 A

<テーマ>

パフォーマンスの測定・分析

<授業の概要>

前期はスポーツ科学の基礎習得を目的とし、健康と運動の関係や、生涯スポーツ、競技スポーツなどそれぞれの観点からの課題について、討論をおこなう。

後期は履修学生が各々興味を持つスポーツを中心に、文献を用いてどのような研究がおこなわれているのかを理解し、実験や分析についての基礎を学ぶとともに、実際に実験研究を体験できるように進めていく。

<活動内容>

当ゼミは、学生それぞれの興味をもったスポーツ種目あるいはスポーツに関わる疑問について、効果を上げるアプローチや問題点に対する調査をおこなうことで、競技スポーツの競技力向上、健康・生涯スポーツに対する有用なデータの収集を目的として実験研究を実施する。

演習 A では、運動生理学・スポーツバイオメカニクス等の基礎的な知識の獲得や、スポーツ科学に関する論文を題材に研究の基礎から知識を持つことを主の目的として取り組んだ。

また、実際の実験研究として、ゼミ生各々が被験者となり、動作解析とコンディショニングに対するアプローチの検討をおこなった。

動作解析では投球フォームを撮影し、球速の算出、プロアスリートの動作と自身の動作の比較、フォームの改善等を目的としたトレーニング処方までおこない、各動作の数値化や球速の変化について分析を進めることで、科学的に解析をおこなうための基礎的な知識を身につけた。

また、コンディショニングに対するアプローチでは、体組成計を用いて自身の体組成を測定し、期間を定めた運動および食事のアプローチによる数値的な変化を考察し、自身で設定したトレーニングに対する効果の検証等をおこなった。

後期後半では、ゼミ生各々の興味を持ったスポーツに関する研究について、先行研究の調査、計画書の作成、実験方法の検討等に取り組んだ。

(8) 向山 昌利 (文学部・准教授)

FLP演習A

<テーマ>

スポーツを通じた国際協力の理論と実践

<授業の概要>

「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」の達成に向けて、あらゆる領域からの貢献が求められており、スポーツも例外ではありません。実はそうしたスポーツを活用してより良い社会を創出しようという試みは、SDGs が策定される10年以上も前となる2000年頃から「開発と平和のためのスポーツ(SDP:Sport for Development and Peace)」として推進されています。

そこで本演習では、これまで積み重ねられてきたSDPプログラムの可能性や限界に迫るために、先行研究をレビューしつつ、SDPプログラムを展開する「非政府組織(NGO:Non-governmental Organization)」スタッフによる講義や他大学とのディスカッションなどを実施していきます。また、実際に東南アジアで展開されるプログラムを現地で調査する機会や、習得した知識を実践に結びつけるアクションラーニングの機会を日本に拠点を置くNGOと連携しながら作ります。

<活動内容>

向山ゼミでは、①キッズトライ、②国内研修、③ラオス・ベトナム現地研修を行った。

①キッズトライでは、日本・台湾・インドネシアの小学生が参加する国際タグラグビー大会を運営し、スポーツが言語や文化を越えて人をつなぐ力を学んだ。

②国内研修では、代々木公園のラオスフェスティバルやスポーツ国際協力に関する講演を通じて理解を深め、株式会社ビジネスブレイン太田昭和への訪問で国際ビジネスについて学んだ。

③ラオス・ベトナム現地研修では、JICA ラオス事務所や ADDP を訪問し支援の現場を学ぶとともに、パーサイ小学校でインクルーシブダンスイベントを実施し、スポーツの社会的意義を実感した。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習:A・B

実施日:2025年6月16日(月)

講演者:河原 工 氏(一般財団法人日本スポーツ政策推進機構)

演 題:政策から見たスポーツ国際協力

実施施設:中央大学 多摩キャンパス GG501 教室

実施内容:スポーツを通じた開発に精通している一般財団法人日本スポーツ政策推進機構の河原工氏を招いた。そしてスポーツを通じた開発や、その価値についてご講演いただいた。質疑応答の時間では、講義内容に加えて、ゼミ活動で生じた疑問に関して議論した。

成 果:講演を通じてこれまでの研究で知り得なかった開発とスポーツにおける歴史や事例、さらにSDGsとの関わりを学ぶことができ、今までにない新たな視点を得ることができた。さらに講演に加え、質疑応答の時間を通して河原氏自身の研究や経験のお話を伺うことができ、これからの研究や活動へと応用するアプローチを得ることができた。

対象演習:A・B

実施日:2025年7月2日(水)

実施都市:東京都港区

実施場所:株式会社ビジネスブレイン太田昭和(BBS)

実施内容：会計とコンサルティングを強みとする企業を訪問した。事業内容や企業理念について説明を受けた。ベトナムにも拠点を持ち、業務を円滑化している点についての紹介もあった。

成 果：BBS は、経理や財務という、高度な専門性が求められる領域も含むビジネスプロセスアウトソーシングサービス（BPO サービス）を提供している。日本国内だけでなくアセアン地域にも顧客を持ち、多様な分野の経営課題の解決をサポートしている。企業による海外展開の重要性を理解した。また、スポーツや教育分野も、会計や経営といった専門分野と結びついて成り立っていることを知る機会となった。

対象演習：A

実施日：2025年8月1日(金)～2025年8月6日(水)

実施都市：福岡県宗像市

実施場所：グローバルアリーナ・他

実施内容：海外を含む多地域から集まった小学生がラグビーを通じて交流する国際スポーツイベント（キッズトライ）にスタッフとして参加した。学生はガイドコーチ、アイスブレイク、異文化交流プログラムなどの役割を担当した。図やジェスチャーを使った説明や宗教的配慮を意識して運営を行った。また、スポーツが人を結びつける過程を間近で観察した。

成 果：スポーツが言語の壁を越えて、信頼関係や仲間意識を育む力を持つことを実感した。また、猛暑対策や宗教的配慮など運営上の課題が明らかになった。国際協力には、柔軟な対応力や、事前準備の重要性が求められることを理解した。

対象演習：A・B

実施日：2025年9月6日(土)～2025年9月15日(月)

実施都市：ホーチミン（ベトナム）、ビエンチャン（ラオス）

実施場所：独立行政法人国際協力機構（JICA）ベトナム事務所、独立行政法人国際協力機構（JICA）ラオス事務所、特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会（ADDP）・他

実施内容：JICA ラオス事務所を訪問し、国際協力の現状や課題についての説明を受けた。法制度整備、不発弾（UXO）除去、インフラ整備、教育やスポーツ支援などの支援事例を学んだ。教育分野では、他国の国際開発機関と連携した支援の在り方についてのお話をいただいた。

成 果：ラオスでは教育環境や、障害者の福祉制度が未整備であることを知った。そしてJICA は、他国の国際機関と分業しながらこの問題の解決に挑んでいることを理解した。就労の持続性を達成するために、日本は現地での指導人材育成に力を入れていることも知った。

対象演習：A・B

実施日：2025年9月11日(木)

講演者：新井 貴久 氏（特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会（ADDP））

演 題：国際協力における障害者スポーツ支援の可能性

実施都市：ビエンチャン（ラオス）

実施施設：Minna no Cafe

実施内容：ADDP で活動する NPO スタッフによる講演を聴講した。ラオスでの障害者の生活や福祉制度の現状を聞いた。また、ADDP が行う就労・教育・パラスポーツ支援についての説明があった。インクルーシブ教育やバイリンガルろう教育の実践についても話を聞いた。

成 果：スポーツは技能や体力の向上だけでなく、自信や生きる力といった社会参加につ

ながら役割を果たすことが分かった。また、ラオスでは障害を理由に社会から孤立しやすい状況がある。そこで、スポーツが仲間と成功体験を得る場として機能していることを理解した。さらに、現地での専門人材育成が持続可能な支援を実現していることも知った。

F L P 演習 B

<テーマ>

スポーツを通じた国際協力の理論と実践

<授業の概要>

「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」の達成に向けて、あらゆる領域からの貢献が求められており、スポーツも例外ではありません。実はそうしたスポーツを活用してより良い社会を創出しようという試みは、SDGs が策定される 10 年以上も前となる 2000 年頃から「開発と平和のためのスポーツ(SDP: Sport for Development and Peace)」として推進されています。

そこで本演習では、これまで積み重ねられてきた SDP プログラムの可能性や限界に迫るために、先行研究をレビューしつつ、SDP プログラムを展開する「非政府組織(NGO: Non-governmental Organization)」スタッフによる講義や他大学とのディスカッションなどを実施していきます。また、実際に東南アジアで展開されるプログラムを現地で調査する機会や、習得した知識を実践に結びつけるアクションラーニングの機会を日本に拠点を置く NGO と連携しながら作ります。

<活動内容>

向山ゼミでは、①国内研修、②ラオス・ベトナム現地研修を行った。

①国内研修では、代々木公園のラオスフェスティバルやスポーツ国際協力に関する講演を通じて理解を深め、株式会社ビジネスブレイン太田昭和への訪問で国際ビジネスについて学んだ。

②ラオス・ベトナム現地研修では、JICA ラオス事務所や ADDP を訪問し支援の現場を学ぶとともに、パーサイ小学校でインクルーシブダンスイベントを実施し、スポーツの社会的意義を実感した。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習: A・B

実施日: 2025 年 6 月 16 日(月)

講演者: 河原 工 氏 (一般財団法人日本スポーツ政策推進機構)

演 題: 政策から見たスポーツ国際協力

実施施設: 中央大学 多摩キャンパス GG501 教室

実施内容: スポーツを通じた開発分野に深く携わっておられる一般財団法人日本スポーツ政策推進機構の河原工氏をお招きし、「なぜスポーツを開発に活用するのか」「スポーツが持つ社会的意義とは何か」を主題にご講演いただいた。また、これまでの研究活動を通して生まれた疑問点について、質疑応答の時間に河原氏および参加学生同士で意見交換を行い、理解を深めた。

成 果: 本講演を通して、従来の研究では十分に把握できていなかったスポーツと開発の歴史的背景や具体的事例、さらに SDGs との関連性について体系的に学ぶことができ、新たな視座を獲得することができた。加えて、質疑応答では河原氏ご自身の実践経験や研究の知見を直接伺うことで、今後の研究や実践活動へと発展させるための手がかりを得ることができた。

対象演習: A・B

実施日: 2025 年 7 月 2 日(水)

実施都市: 東京都港区

実施場所: 株式会社ビジネスブレイン太田昭和 (BBS)

実施内容: 会計およびコンサルティングを主軸とする企業を訪問し、事業概要や経営理念について説明を受けた。同社はベトナムにも拠点を設け、海外拠点と連携しながら

業務効率化を図っている点についても紹介いただいた。

成 果 : BBS は、経理・財務など高度な専門性を要する分野を含むビジネス・プロセス・アウトソーシング (BPO) を展開しており、日本国内のみならず ASEAN 地域の企業にもサービスを提供していることを学んだ。多様な経営課題に対応する体制を整えている点から、企業の海外展開の意義を実感した。また、ベトナム支店の方ともオンラインで会話をし、その地域にあったマネジメントをされていることを学んだ。

対象演習 : A・B

実 施 日 : 2025 年 9 月 6 日 (土) ~ 2025 年 9 月 15 日 (月)

実施都市 : ホーチミン (ベトナム)、ビエンチャン (ラオス)

実施場所 : 独立行政法人国際協力機構 (JICA) ベトナム事務所、独立行政法人国際協力機構 (JICA) ラオス事務所、特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP) ・他

実施内容 : JICA ラオス事務所を訪問し、ラオスにおける国際協力の取り組みや現状の課題について説明を受けた。多岐にわたる事業事例を学んだほか、教育分野では他国の国際開発機関と連携した支援体制についても伺った。また、ラオスと日本の協力の歴史から現在実施されている具体的支援内容まで幅広く理解することができた。さらに、現在進行されているスタジアム建設のお話も伺い、建設中のスタジアムを訪問した。

成 果 : JICA は、単一分野に限定されない包括的な国際協力を展開していることを理解した。ラオスでは教育環境や障害者福祉制度が十分に整備されていない現状があり、JICA は他国機関と役割分担を行いながら課題解決に取り組んでいることを知った。また、日本の支援は現地で指導・運営を担える人材育成を重視しており、それが教育や就労の持続可能性につながっている点を学ぶことができた。

対象演習 : A・B

実 施 日 : 2025 年 9 月 11 日 (木)

講 演 者 : 新井 貴久 氏 (特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP))

演 題 : 国際協力における障害者スポーツ支援の可能性

実施都市 : ビエンチャン (ラオス)

実施施設 : Minna no Cafe

実施内容 : ADDP で活動する NPO スタッフによる講演を聴講した。ラオスでの障害者の生活や福祉制度の現状を聞くことができた。また、ADDP が行う就労・教育・パラスポーツ支援についての説明があった。パラスポーツが障害者の社会参加を促す過程について理解が深まった。また、みんなのカフェで働いている方との交流を通して、スポーツがもたらす力について体で感じることができた。

成 果 : スポーツは技能や体力の向上にとどまらず、自信や達成感を育み、社会参加を後押しする力を持つことを実感した。ADDP で実施したイベントでは、当初は恥ずかしそうにしていた参加者も次第に笑顔を見せ、雰囲気引き込まれるように途中から加わる姿が見られた。自閉症と聴覚障害のある参加者も、周囲の動きや学生の姿を見ながら懸命に振りを覚え、最後まで取り組んでいた。後日、その母親から「今日が本当に楽しかったと初めて自慢してくれた」と感謝の言葉をいただき、スポーツが心に与える影響の大きさを強く感じた。また、下肢障害のある参加者に対し、無意識のうちに座って参加する方がよいのではないかという前提で椅子を用意していたが、本人から「立ってやりたい」と伝えられ、自身の固定観念に気づかされた。スポーツの場は可能性を制限するものではなく、一人ひとりの意思を尊重しながら共に創るものであることを学んだ。

(9) 小林 勉 (総合政策学部・教授)

FLP 演習 A

<テーマ>

スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

<授業の概要>

J リーグのホームタウンの事例にみられるように、スポーツによって地域が大きな盛り上がりを見せるなど、近年、「地域」と「スポーツ」が結びつけられて論じられることが多くなっています。こうした捉えられ方はいつ頃から、どのような経緯の中でなされてきたのでしょうか。本授業ではそうした経緯について理解を深めながら、スポーツによる地域活性化の可能性について検討していきます。それと同時に、「スポーツの素晴らしさ」だけを焦点化するのではなく、地域活性化にスポーツを結びつけて考えようとする際の様々な課題についても検証します。

地域で展開されるスポーツの実情を踏まえながら、「地域とスポーツ」の関係について多角的な観点から検討できるようになることが、本授業の大きな目標です。

<活動内容>

FLP 小林ゼミ演習 A では、①掛川市に向けた政策提言、②J リーグクラブとの連携プロジェクトの運営サポートを行った。

まず、①「掛川市に向けた政策提言」では、8 月に訪れた静岡県掛川市において、どのような現状か、何が課題かを掛川市役所へのヒアリング調査や現地でのフィールドワークによって明らかにし、そこで得た情報から「観光振興」をテーマに、経済活動の活性化を促す政策提言を行った。

次に、②「J リーグクラブとの連携プロジェクトの運営サポート」では、J リーグクラブのブラウブリッツ秋田と本ゼミが共同で 12 年間にわたって実施してきた福+プロジェクトにおいて、ホーム戦の際にブース企画運営やジャーナル・メッセージカード配布を行った。内容は、秋田に因んだ工芸品を活かした体験型ブース企画、秋田観光を便利にするジャーナルの作成・配布等である。演習 A では、それらの運営サポートを行った。秋田の皆様毎日に、「スポーツを通じてちょっとした福をプラスしたい」という想いのもと、「元気な街、秋田」の構築を目指してこのような企画の実施に至った。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B

実施日：2025 年 8 月 22 日(金)～2025 年 8 月 24 日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム

実施内容：「出羽和紙を利用したしおりの製作体験」の補助を行った。

成 果：緊張した雰囲気はあったものの、ブラウブリッツ秋田サポーターをはじめとする来場者の方々と、出羽和紙を使ったしおりの製作体験を通じてコミュニケーションをとることができた。また、夏休み中ということもあり、子供連れの来場者も多く、多くの世代の方々との交流が深まり、秋田の魅力を再発見してもらうきっかけを創出できた。

対象演習：A・B

実施日：2025 年 9 月 11 日(木)～2025 年 9 月 12 日(金)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：株式会社ブラウブリッツ秋田

実施内容：各協賛企業様への訪問同行

成 果：A 生からは 2 名が同行し、先輩方が協賛企業の担当者様へ直接ご挨拶および御礼

をお伝えする様子を間近で体験した。実際の企業様とのやりとりを通じて、言葉遣いや立ち居振る舞い、場の雰囲気づくりなど、対外的なやりとりにおける基本姿勢を学ぶ貴重な機会となった。応援してくださる企業様と信頼関係を築くための礼儀や配慮の重要性を肌で感じることができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年9月13日(土)～2025年9月15日(月)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム

実施内容：「出羽和紙のお守り製作体験」の補助を行った。

成果：出羽和紙を使用したお守り製作体験を実施し、A生は特にブース運営とジャーナル、メッセージカードの配布を担当した。当日は子供連れの家族層の来訪が多く、出羽和紙に親しみながら、オリジナルのお守り製作を楽しむ様子が見られた。和紙が風で飛ばされやすく苦戦する様子もあったが工夫して行うことができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年9月17日(水)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：秋田市文化創造館

実施内容：秋田共創ワークショップの運営補助を行った。

成果：A生からは1名が同行し、秋田県内の複数の企業様をお迎えするとともに、ワークショップの運営補助を行った。本ワークショップは、秋田の魅力や現状の課題について企業様同士が意見を交わす貴重な機会となった。企業様同士が協力しながら、秋田の魅力を最大限に活かした事業を検討する姿を通して、企業様の連携による地域活性化の可能性を実感するとともに、来年度プロジェクトへの示唆を得ることができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年9月27日(土)～2025年9月28日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム

実施内容：「秋田杉を使った絵馬作成体験」の補助を行った。

成果：実際に地元の方やアウェイサポーターの方、クラブスタッフの方と関わり、地域の方々とサッカーファンの空気感や試合運営の流れ等を知ることができ、来年度のプロジェクトに繋がる大変貴重な機会となった。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年10月4日(土)～2025年10月5日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム

実施内容：「イタヤ細工製作体験」の補助を行った。

成果：福たす day 第4回目では、秋田の伝統工芸品であるイタヤ細工のタオル留め作り体験が行われた。A生は特にイタヤ細工製作ブース運営とアウェイサポーターへジャーナル、メッセージカードの配布を担当した。当日は家族連れの来場者が多くブースに訪れ秋田市民の方々と交流ができた。イタヤ細工は大人でも難しい作業があり子供は苦戦していたが、職人の方々の協力により楽しく完成させられていた。最後はブラウブリッツ秋田スタッフの方々と撤去作業を行った。全体を通して、スポーツが持つ力が、競技のみならず、地域社会や伝統文化にまで波及することを現場で感じることができた。

対象演習：A

実施日：2026年2月21日(土)～2026年2月22日(日)

実施都市：静岡県賀茂郡

実施場所：河津町立河津小学校

実施内容：静岡県賀茂郡河津町にて開催された NPO 法人あおぞらビレッジによるイベントの場において、「桜のアートづくり」「コーン当てミニサッカー」を行った。

成果：今回のイベントから、子供たちは地域を元気にする力を持っていると感じた。また、イベント参加者同士のコミュニケーションがコミュニティ構築に繋がり地域のネットワークを強化すると感じた。子供たちを対象とした企画を通して、ルールの難易度などを参加者の反応から確認することができた。来年度実施予定の企画に対して、課題を認識することができた。

FLP演習B

<テーマ>

スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

<授業の概要>

Jリーグのホームタウンの事例にみられるように、スポーツによって地域が大きな盛り上がりを見せるなど、近年、「地域」と「スポーツ」が結びつけられて論じられることが多くなっています。こうした捉えられ方はいつ頃から、どのような経緯の中でなされてきたのでしょうか。本授業ではそうした経緯について理解を深めながら、スポーツによる地域活性化の可能性について検討していきます。それと同時に、「スポーツの素晴らしさ」だけを焦点化するのではなく、地域活性化にスポーツを結びつけて考えようとする際の様々な課題についても検証します。

地域で展開されるスポーツの実情を踏まえながら、「地域とスポーツ」の関係について多角的な観点から検討できるようになることが、本授業の大きな目標です。

<活動内容>

FLP 小林ゼミ演習Bは、Jリーグクラブとの共同プロジェクトである「福+プロジェクト」の企画運営を行った。「福+プロジェクト」の企画として以下のような活動を行った。

1. おもてなし企画

ウェルカムメッセージと伝統工芸品ふれあい体験を実施した。ウェルカムメッセージではホームサポーターの直筆メッセージカードをアウェイサポーターにお渡しし、秋田の皆様の温かさをお伝えすることを目的とした。伝統工芸品ふれあい体験では、出羽和紙、秋田杉、イタヤ細工を題材とし、関係人口の増大を目的とした。そして、これらを通して、アウェイサポーターが秋田で過ごす時間を特別なものとし、来年度以降の再来訪を促すことを目標とした。

ウェルカムメッセージでは、アウェイサポーターのXの投稿から、再来訪の意欲の創出と秋田への愛着醸成のきっかけづくりという効果を確認できた。伝統工芸品ふれあい体験では、アンケートから、交流人口拡大のきっかけ創出と地元の魅力再発見という効果を確認できた。

2. 秋田共創ワークショップ

県内の観光関連事業者計12社18名の方をお招きし、アウェイツーリズムをテーマに議論を行った。周遊観光を促進する仕組みや施策の共創と秋田の将来を考える基盤の構築を目的とし、様々な業種の企業や行政など、垣根を超えた共創の場を提供した。

事業者間共創の場の提供、地域の魅力・課題の再認識「アウェイツーリズム」についての知見共有を通して、連携基盤の構築に寄与することができた。

3. キックオフ！キミのミライ！

秋田県内の中高生やその保護者を対象に、進路やキャリアに関する講演イベントを行った。県外で学ぶ意義を伝えつつ、秋田との新たな関わりの創出、秋田で働く・活躍するイメージの具体化、県外で学び、秋田へ還元するという主体性の形成を目的とした。そして、また定住人口へと戻ってきてもらうという「人口環流」の一步目として本企画を実施した。参加者の中には、本企画をきっかけに、初めてブラウブリッツ秋田の試合を観戦してくださった方もおり、その後、「企画への参加を通じて、皆さんのように秋田の活性化に貢献したいと強く感じました」というメールをいただいた。若者と秋田との新たな関係を創出でき、秋田で活躍する未来の人口環流の一步としてのこの企画の機能を実感できた。

4. 無料観戦チケット付き宿泊プラン

秋田県内のホテルと連携し、1泊2日の観戦チケットが付いた宿泊プランを提供した。また、対象試合ではアウェイツーリズムへの直接的なアプローチと、アウェイ遠征に関する観光データの取得を目的とし、宿泊プラン参加者も含めたアウェイ観戦に関するインタビューを行った。宿泊プランの利用は3組、アウェイ調査実施は約100組にのぼった。宿泊プランの利用者の中には「プランが観戦動機につながった」という声があり、観戦動機の創出という成果が得られた。また、アウェイ調査実施では、観光自体が主目的ではないが、タイミングが合えば観光をしたいライト観光者の需要を確認することができた。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：B

実施日：2025年6月29日(日)～2025年7月4日(金)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：株式会社ブラウブリッツ秋田・他

実施内容：プロジェクト実施にあたり、関係機関に対して挨拶およびスポンサーシップ広報活動を行った（主に中央大学学生会秋田支部の方々）。

成果：関係機関に対し昨年の御礼、および今年度のプロジェクトについての説明をしたのち、プロジェクトへの協賛を得ることができた。

対象演習：B

実施日：2025年7月7日(月)～2025年7月9日(水)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：株式会社ブラウブリッツ秋田

実施内容：株式会社ブラウブリッツ秋田スタッフの方々に対し、今年度のプロジェクトに関する説明を行った。

成果：プロジェクト案に対し、スポーツビジネスの現場で活躍される方々のリアルなフィードバックをいただくことができた。また、説明や質疑応答を通じ、プロジェクト実施に向けた連携基盤を構築することができた。

対象演習：B

実施日：2025年7月20日(日)～2025年7月26日(土)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：株式会社ブラウブリッツ秋田・他

実施内容：ブラウブリッツ秋田のファン感謝祭において、おもてなし企画にて、配布予定のメッセージカードの作成を選手・ファン・サポーターの方々からお手伝いいただいた。加えて、別日に選手からは企画広報のために使用するSNS投稿の作成にもご協力いただいた。また、企画実施に向け、関係機関へ協力をお願いをした。

成果：ファン感謝祭では、約280枚のメッセージカードを集めることができ、ブラウブリッツ秋田が人々の生活を彩る存在であることを肌で感じた。また、アスリートの息遣いや視点、姿勢等から日々己と向き合い、目の前の一分、一秒を大切にすることの重要性を緊張感とともに感じることもできた。そして、企画実施に向けたお願いをした関係機関からは企画趣旨への賛同、実施に向けた協力表明を得ることができた。

対象演習：B

実施日：2025年7月23日(水)～2025年7月25日(金)

実施都市：秋田県仙北市

実施場所：株式会社川村自動車工業・他

実施内容：プロジェクト実施に向けたスポンサーシップ広報活動を行った。

成 果：プロジェクトへの協賛を得ることができた。また、企業様からの応援の言葉によりプロジェクトへの覚悟や責任感が強まった。

対象演習：B・C

実 施 日：2025 年 7 月 26 日(土)～2025 年 7 月 27 日(日)

実施都市：静岡県賀茂郡

実施場所：河津町立河津小学校

実施内容：NPO 法人あおぞらビレッジが主催するあおぞらキャンプに参加し、キャンプに参加した幼稚園生から中学生に向けて、レクリエーションを試行した。

成 果：幼稚園生や中学生に楽しんでもらうにはどのようなレクリエーションを実施すべきか、対象者に合わせた企画立案を経験することができた。また、希望に合わせてその場で臨機応変に対応する柔軟性を養うことができた。

対象演習：B

実 施 日：2025 年 7 月 28 日(月)～2025 年 8 月 2 日(土)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：株式会社ブラウブリッツ秋田・他

実施内容：秋田県内の交通・観光事業者計 5 社へ訪問し、「秋田共創ワークショップ」への企画協力を依頼した。

成 果：交通・観光事業者 3 社より、「秋田共創ワークショップ」参加への前向きなご意向をいただくことができた。また、ヒアリングを通じて、秋田県の観光分野に対しての課題認識をご教示いただき、企画改善へとつながった。

対象演習：B

実 施 日：2025 年 8 月 7 日(木)～2025 年 8 月 10 日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：一般社団法人 ONE FOR AKITA・他

実施内容：秋田県内の交通・観光事業者計 4 社へ訪問し、「秋田共創ワークショップ」への企画協力を依頼した。

成 果：交通事業者 1 社より、「秋田共創ワークショップ」参加への前向きなご意向をいただくことができた。また、ヒアリングを通じて、秋田県の観光分野に対しての課題認識をご教示いただいただけでなく、新たな協力依頼先をご紹介いただいた。

対象演習：B

実 施 日：2025 年 8 月 8 日(金)～2025 年 8 月 10 日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：秋田市立山王中学校・他

実施内容：「新スタジアム構想と若者のシビックプライドに関する研究」のため、プレ調査を行った。山王中学校の生徒 12 名にアンケート調査を行い、30 名分の回答を回収した。

成 果：秋田市に住む中学生の地域や新スタジアム構想に対する意識傾向を把握することができた。プレ調査で得られた具体的な意見や視点を集約し、10 月に実施予定の本調査（全校生徒対象）における設問設計および選択肢に反映させた。

対象演習：A・B

実 施 日：2025 年 8 月 21 日(木)～2025 年 8 月 26 日(火)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：ブラウブリッツ秋田のホームゲームにて、「おもてなし企画」を実施した。

成 果：「おもてなし企画」参加者には、秋田の伝統的な出羽和紙を使用したしおり製作体験を通して、秋田に対する新たな気づきを提供し、秋田での体験を特別なものと感じていただくことができた。

対象演習：B

実 施 日：2025 年 8 月 23 日(土)～2025 年 8 月 25 日(月)

実施都市：長崎県長崎市

実施場所：PEACE STADIUM Connected by SoftBank・他

実施内容：「新スタジアム構想と若者のシビックプライドに関する研究」の先行事例を調査するため、スポーツによる街づくりで注目を集める長崎スタジアムシティでインタビュー調査と参与観察を行った。また、施設の広報担当者に案内してもらい、施設に込められた想いや機能について知見を得た。

成 果：スタジアム周辺に、ホテルや商業施設が併設されている長崎スタジアムシティでは、日常と非日常が交差しており、試合日問わず地域住民と観光客で賑わう場所となっていることを確認した。また、施設訪問者に対して行ったインタビュー調査から、「施設ができたことで生活の質が向上した、子供にとって誇れる場所になった」という声があり、新施設がシビックプライドの醸成に寄与することが示唆された。

対象演習：B

実 施 日：2025 年 8 月 27 日(水)～2025 年 8 月 28 日(木)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：秋田市立山王中学校・他

実施内容：10 月に実施する進路講演イベント「キックオフ！キミのミライ！」に関する広報活動のため、秋田市や横手市に所在する中学校や高校計 13 校にチラシを配布、郵送した。

成 果：教育現場との連携により、これまで接点のなかった層へ企画の認知を広げ、生徒が自身のキャリアを考える契機と、イベント本番への集客基盤を構築することができた。

対象演習：A・B

実 施 日：2025 年 9 月 11 日(木)～2025 年 9 月 17 日(水)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：プロジェクトへご協賛いただいた方々に対し、お礼の挨拶と、返礼品のお渡しを行った。

成 果：実践を通してソーシャルスキルを身につけるとともに、交流を通じ、ご協賛いただいた方々との関係をより強固にすることができた。

対象演習：A・B

実 施 日：2025 年 9 月 13 日(土)～2025 年 9 月 15 日(月)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム

実施内容：ブラウブリッツ秋田のホームゲームにて、「おもてなし企画」の実施、「福たすジャーナル」の配布を行った。

成 果：「おもてなし企画」参加者には、秋田の伝統的な出羽和紙を使用したお守り製作体験を通して、秋田に対する新たな気づきを提供し、秋田での体験を特別なものと感じていただくことができた。また、前回と実施位置を変更することで、より多くの愛媛サポーターへ秋田の魅力を届けることができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年9月17日(水)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：秋田市文化創造館

実施内容：県内の観光関連事業者を招いた「秋田共創ワークショップ」を実施した。

成果：「秋田共創ワークショップ」と題し、ブラウブリッツ秋田の岩瀬社長や株式会社 Plaru の CEO である大崎雄也氏をお招きし、「アウエイツーリズム」の意義や観光 DX の活用について講演を行った後、県内の観光関連事業者の方々とともに、ホームゲームに訪れるアウェイサポーターを対象とした受入体制の課題抽出や秋田県の魅力再確認に向けた議論を行い、スポーツを通じた地域活性化について話し合いを深めた。今後も引き続き、事業者の方々と連携して、「アウエイツーリズム」について考える基盤を構築することができた。

対象演習：A・B

実施日：2025年9月27日(土)～2025年9月29日(月)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：ブラウブリッツ秋田のホームゲームにて、秋田プライウッド様ご協力のもと「おもてなし企画」の実施、「福たすジャーナル」の配布を行った。

成果：試合日の福たすブースにて、秋田杉で作られた絵馬の作成を会場の方々に体験していただいた。全 258 枚のうち約 50 枚はアウェイサポーターの方々に体験していただき、ホームサポーターとアウェイサポーターの交流のきっかけをつくることができただけでなく、秋田杉の絵馬に関連した SNS 投稿も多数確認できた。これにより、関係人口創出のきっかけづくりや、地元の魅力の再発見に寄与することができた。

対象演習：B

実施日：2025年10月2日(木)～2025年10月5日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：イオンモール秋田にて第1回「キックオフ！キミのミライ！」を実施した。

成果：進学を控える中高生やその保護者の方々に、県外で学ぶ意義を伝えつつ、秋田で活躍される方々のお話やその魅力を届けることで、将来的な人口環流創出の一步目とすることができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年10月3日(金)～2025年10月5日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：ブラウブリッツ秋田のホームゲームにて、イタヤ細工職人様ご協力のもと「おもてなし企画」の実施、「福たすジャーナル」の配布を行った。

成果：仙北市役所のご担当者様や、職人様など、外部組織との関係を構築し、企画の実施形式や予算をすり合わせることで企画の実現を果たすことができた。当日は、アウェイサポーター1名、ホームサポーター30名にご参加いただき、「角館への興味が深まりました」「(イタヤ細工を)初めて知った」等の言葉をいただいた。関係人口創出のきっかけづくりや、地元の魅力の再発見に寄与することができた。

対象演習：B

実施日：2025年10月17日(金)～2025年10月18日(土)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：秋田県生涯学習センター

実施内容：第2回「キックオフ！キミのミライ！」を実施した。

成 果：第2回は「スポーツ×キャリア」をテーマに講演イベントを行い、スポーツでのキャリアに関心を持つ参加者に、元サッカー選手やブラウブリッツ秋田フロントスタッフの方々のお話を届けることができた。参加者からは「地元にJリーグがあるという幸せに気づくことができた」という声も寄せられ、ブラウブリッツ秋田の社会的価値向上にも微力ながら寄与することができた。

対象演習：B

実施日：2025年10月25日(土)～2025年10月26日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム

実施内容：ジェフユナイテッド市原・千葉戦にてブース・展示の実施、無料観戦チケットのお渡しやインタビュー調査を行った。

成 果：活動内容・目的を直接周知するとともに、ホーム・アウェイ両サポーターとの接点を構築することができた。加えて、ブース内でホームサポーター向けのワークショップを実施することにより、サポーター目線からの観光課題・魅力を再発見できた。また、「無料観戦チケット付き宿泊プラン」により、アウェイサポーターの観戦動機の創出をすることに成功し、アンケート調査では宿泊・来訪動機の創出に成功。観光ルートや消費行動等の二軸のデータを取得し、秋田県の観光振興施策に活用可能な基礎データを集めることができた。

対象演習：B

実施日：2025年11月9日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム

実施内容：いわきFC戦にて、ブース・展示の実施、無料観戦チケットのお渡しや、インタビュー調査を行った。

成 果：前試合同様、我々の今年度の活動に興味をもってくださる方と直接お話をする機会を設けることができた。前回の調査結果に基づき設問を改善したことで、観光動機や宿泊意向についてより精度の高い回答を得られた。継続的な調査により、来訪回数や日帰り・宿泊別による消費意識の差を比較分析するための定量データを収集できた。

対象演習：B

実施日：2025年11月22日(土)～2025年11月23日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム

実施内容：ベガルタ仙台戦にて、ブース・展示の実施、インタビュー調査を行った。

成 果：前2試合同様に、我々の今年度の活動に興味をもってくださる方と直接お話をする機会を設けられた。加えて、ホーム・アウェイ両サポーターを対象としたワークショップを実施し、互いの地域目線での魅力を再発見できた。本試合では、従来の観光・消費行動の調査とは異なり、サポーターの価値観やサッカーへの関わり方に焦点を当てたインタビューを実施し、約50組から「感情的動機」等の質的データを収集した。あわせて旅行計画アプリ「Plaru」に関する調査も行い、スポーツ観戦を起点としたデジタル観光支援ツールの発展可能性を確認できた。

対象演習：B

実施日：2025年12月22日(月)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：協働大町ビル

実施内容：福+プロジェクトにご支援・ご協力いただいた関係者の方々に対して、プロジェクト全体を通じた報告会を実施し、今年度の活動を総括した。

成果：報告会の準備、実施を通して、改めて活動の整理や振り返りをすることができた。また、関係者らに対し、来年度以降の連携についてもご協力のお願いをすることができた。

対象演習：B・C

実施日：2026年1月16日(金)～2026年1月25日(日)

実施都市：オークランド（ニュージーランド）

実施場所：Eden Park・他

実施内容：オセアニア地域で初めて創設される OFC プロリーグへ参加するバヌアツ代表チーム（バヌアツユナイテッドFC）をはじめとした、国際的なスポーツ組織に対する現地視察と実態調査。

成果：OFC プロリーグの開幕およびバヌアツ代表チーム（バヌアツユナイテッドFC）の試合視察、そして関係者へのヒアリングを通じ、リーグ創設初期における運営上の課題（財政体制や情報発信体制、クラブごとのスケジュール管理）を具体的に把握した。一方、移民の多いオークランドでは、自国のクラブを応援すること自体がコミュニティの誇りや結束を生み、競技・勝敗を超えた社会的価値を創出している実態を確認した。これにより、スポーツが多文化共生や地域社会に果たす役割について実践的な示唆を得た。

FLP演習C

<テーマ>

スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

<授業の概要>

Jリーグのホームタウンの事例にみられるように、スポーツによって地域が大きな盛り上がりを見せるなど、近年、「地域」と「スポーツ」が結びつけられて論じられることが多くなっています。こうした捉えられ方はいつ頃から、どのような経緯の中でなされてきたのでしょうか。本授業ではそうした経緯について理解を深めながら、スポーツによる地域活性化の可能性について検討していきます。それと同時に、「スポーツの素晴らしさ」だけを焦点化するのではなく、地域活性化にスポーツを結びつけて考えようとする際の様々な課題についても検証します。

地域で展開されるスポーツの実情を踏まえながら、「地域とスポーツ」の関係について多角的な観点から検討できるようになることが、本授業の大きな目標です。

<活動内容>

小林ゼミ演習Cでは、演習A・Bで展開されるJリーグクラブとの連携プロジェクトの運営サポートを行った。Jリーグクラブとの連携プロジェクトは、ブラウブリッツ秋田と本ゼミが12年間にわたり実施してきた共同プロジェクトである。現地秋田を訪問し、演習Bを中心に企画立案された複数のコンテンツに対して、準備段階から実施当日の運営に至るまでの、補助や進行援助などを通じて、演習Bの活動への協力支援活動を行った。

昨年度、プロジェクト11年目において主体的に活動した経験を踏まえ、企画運営上の留意点や現地関係者との連携方法に関する知見を共有しながら支援を行うことで、今年度のプロジェクト推進に尽力した。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：B・C

実施日：2025年7月26日(土)～2025年7月27日(日)

実施都市：静岡県賀茂郡

実施場所：河津町立河津小学校

実施内容：NP0 法人あおぞらビレッジによって、静岡県賀茂郡河津町にて開催された、あおぞらキャンプの場において、自然を活用したレクリエーション等を行った。

成果：本活動では、小学生未満の幼児から中学生をはじめとした幅広い年齢層の子供を対象に、自然を活用したレクリエーションを実施した。年齢差のある参加者全員が楽しめるようなルール設定を検討する過程を通して、状況に応じて工夫する力や創意工夫力を身につけることができた。また、地域の方々と協力して行ったカレー作りでは、初対面かつ年代の大きく異なる方々との交流を経験した。これにより、相手に配慮しながら円滑に意思疎通を図るコミュニケーション能力を養うことができた。

対象演習：C

実施日：2025年8月21日(木)～2025年9月4日(木)

実施都市：ポートビラ（バヌアツ）、ブリスベン（オーストラリア）

実施場所：独立行政法人国際協力機構（JICA）バヌアツ支所・他

実施内容：バヌアツ共和国とオーストラリア・ブリスベンにて、それぞれ異なる観点から国際協力と都市政策に関する実践的な学びを得ることを目的とし、理論と実践の間に存在する乖離や、現地に即した支援の在り方についての認識を深めた。

成果：JICAバヌアツ支所にて、事業説明や協力隊事業の紹介を受け、さらに現地で活動する隊員の視察を通じて、スポーツや教育を含む草の根レベルの国際協力の実

態を理解した。また、バヌアツサッカー連盟への訪問を通じて、スポーツを通じた国づくりや人材育成、コミュニティ形成の在り方についても知見を得た。オーストラリアでは、都市再生の先行事例として知られるブリスベン・サウスバンク地区を視察対象とし、スポーツ施設や公共空間、レクリエーション施設の配置、市民の利用実態を観察し、日本の地方都市との比較を通じて、スポーツを基軸とした都市政策や健康都市づくりに関する考察を深めた。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年10月5日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム

実施内容：Jリーグクラブのブラウブリッツ秋田と連携し、ビジターサポーターを主な対象者として開催したブースイベントである、「イタヤ細工でのタオル留め製作体験」の運営、また実行援助を行った。

成果：今回の活動を通して、「スポーツ観戦」を主目的とした来訪にとどまらず、地元ならではの文化や資源に触れる体験を組み合わせることで、スポーツを契機とした新たな来訪動機を創出できる可能性を見出すことができた。また、スポーツ単体の価値に依存するのではなく、地域固有の特性や他分野の資源と掛け合わせることで、地域活性化施策を多角的に検討、また追求する視点の重要性を理解することができた。これにより、スポーツを軸としたまちづくりの可能性について実践的な知見を得ることができた。

対象演習：B・C

実施日：2026年1月16日(金)～2026年1月25日(日)

実施都市：オークランド（ニュージーランド）

実施場所：Eden Park・他

実施内容：オセアニア地域で初めて創設される、OFC プロリーグへ参加するバヌアツ代表チーム（バヌアツユナイテッドFC）をはじめとした、国際的なスポーツ組織に対する現地視察と実態調査。

成果：今回の活動を通して、オークランドにおける現地視察やOFCプロリーグ関係者へのヒアリングを通じ、バヌアツユナイテッドFCをはじめとするプロチーム立ち上げの制度的・財政的課題や国際協力機関との協働の実態、さらに若者や地域社会に及ぼす教育的・社会的影響について理解を深めることができた。また、スポーツが国や文化を越えて人々を結びつけ、活力や生きがいを生み出す力を持つことを実感するとともに、海外のスポーツ組織の仕組みを学ぶことで、スポーツというコンテンツが社会にもたらす効果に関する新たな知見を得ることができた。